

事業名	令和7年度 第1回市川市立美術館整備検討委員会		
日時	令和8年2月10日(火)15時~16時	出席者	【委員】多賀委員、土橋委員、寺久保委員、 貝塚委員、松尾委員 【事務局】文化国際部 文化芸術課 美術館構想室
場所	第1庁舎 会議室		
種別	<input type="checkbox"/> 交渉 <input type="checkbox"/> 連絡 <input type="checkbox"/> 提案 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

【内容】

1. 美術館に関するアンケート結果について
2. 市立美術館構想（素案）について

【議事】

1. 美術館に関するアンケート結果について
(事務局から説明)
資料1参照

2. 市立美術館構想（素案）について
(事務局から説明)
資料2参照

(意見交換)

○貝塚委員

2. 000件を超えるアンケートが2週間でよく集まった。

○多賀委員

市川にはよい美術関係者がたくさんいるが、なかなか参加してくれない。アンケートもほとんど美術関係者が入っていないことに問題を感じる。

○寺久保委員

1月24日に川口市立美術館が竣工した。計画が立ち上がったのは2010年頃で、このような会議に参加していた。地元企業を巻き込みながら進めていった経緯を見てきた。

川口市の前市長は中核市に美術館があるのは当たり前だという考えで、3期務める中で市の方も動き始めた。大手企業に依頼してパッケージで美術館を作るのは簡単だが、これからはそうではなく、独自に考える必要がある。パッケージで出てきた内容は、どこの市でもあてはまりそうなものが出てくる。

川口市は地元を大事にするということで始まった。「市川市ならでは」というのをどう作っていくか。

最終的にできたものは建屋と今後行うべき運営方針、どんな方向でやっていくかというプログラムとセットだった。寄贈された旧田中家住宅という建物があり、そこで美術の展示もしている。

その他に川口市立アートギャラリー・アトリアという美術展示場を作った。はじめは仕組みが分離

していたが、美術館を作ると同時にそれをネットワークでつなげる運営の仕組みも作った。
市の直営ではなく委託式で運営。
美術館建設については、反対もあったが、翻って文化融和の発信をするという方向になった。

○貝塚委員

川口市立美術館の組織の大きさはどのくらいなのか。

○寺久保委員

自分は最初の出だしのみに関わりだったのでよくわからないが、若い人を集めていた。

○多賀委員

市川市にはコレクターがたくさんいる。石川県の小松市に個人コレクションを寄贈した人がいる。
コレクターの人をどう取り込んでいけるか考えている。

○貝塚委員

川口市立美術館のミッションが魅力的である。

「川口市立美術館が大切にすること「地域とつながる」、「自分の世界を広げる」、「ともに成長する」」というのがある。

○寺久保委員

川口市は、当初から地元密着型美術館を作ろうと話していた。

埼玉県内にある埼玉県立近代美術館は現代アート系。うらわ美術館もあるが、地元の作家よりも現代美術、世界的美術になる。川口市はコレクターもいたので寄贈品もあったため、それがベースとなっている。海外から高い作品を買ったというのではないと思う。「ともに成長していく」というのは、オール川口でやっていこうという雰囲気はあった。

○土橋座長

市川シビエ会主催の講演会で、川口市立美術館の館長になる建昌氏が、最近美術館名に近代や現代などの時代をつけない傾向にあると話していたのが印象的だった。土地名だけのストレートの名前の方が、その名前を広げるのに有効であると聞いた。地元を大事にするということの表れになるとのことだ。

○寺久保委員

川口市は、ここに住んでいる作家は私たちの作家だというムード作りは以前からしている。
市庁舎に若手作家の作品を飾るなどして地元の作家の紹介をしている。市だけでなく、有力者も協力していると思う。

○松尾委員

アンケートがとてもよくできていると感じた。

通常(美術館で実施すると)美術館に行く人に書いてもらうことになるが、行かない人にも聞いているので、貴重なものだと思う。

意見がこちらの懸念していることを入れていて選択肢が分散しているので、興味深いと思った。美術館が必要だと思わない理由として、都内や近隣市の美術館に行けば十分だからというのは、美術館に行く人でもそう思うので、行かない人はより思う。それをどう乗り越えてわざわざ作るのかが問題である。

市川らしさという、やはり歴史だと思う。今收藏している作品の分野に集中しすぎてそればかりにならないようにした方が市川らしさは出ると思う。

美術館が必要だと思わない理由として、すでに展示施設が他にあるからというのは、実際にそうである。今ある施設を一体化して中核的な美術館ができるという構想だと思うので、美術館ができるまでの間に今あるものにもっと力を注いでいなくてはならない。構想があるのであれば、しっかり人をつけて組織にすることが必要。

○貝塚委員

アンケートで40、50代の回答を得るのは困難なので、そこで50%近い回答を得ているので意味のあるアンケートだと思う。

構想の素案については、文句つけようがないが、報告書のように新鮮味がない。正しいことを言っているし、千葉県立美術館でも同じことを行っているが、新しい美術館を作ろうとしているのであれば、何か新鮮味があるとよいと思った。川口市のように新鮮味のあるものにしてもよい。

○寺久保委員

最初の素案の段階は、普通でないと議会に通らないことがあるので、フォーマルなものになりがち。川口市も最終的に出すときに新鮮味のあるものになった。

○貝塚委員

昨年の検討委員会では、構想の時期なので、風呂敷を拵げた方がよいと言ったが、この構想素案が出て市民に約束してしまうと大変なことになる。事務局の戦略としてこれだけのことをやりたいからと人材要求の武器とするのであればよいが、大きく構想を打ち出したものの、人材確保ができなかった時に現場が疲弊することが恐ろしい。風呂敷を広げることは必要だが、ある部分で畳まなければならない。その辺の兼ね合いが難しい。市政の動きや市民との関係にもよるが、これをすべて市民に約束してしまうと危ない。美術館の仕事は多岐にわたるため、一つ一つこなしていくといくら人がいても追いつかない。

○事務局

あらゆるものを盛り込んだが、整備場所や規模が確定したらそれに見合ったものを選択していくようにしたいと考えている。

○松尾委員

既にある800点以上の作品保管のために民間倉庫を借りていることや作品の活用が十分にできていないことが、大きな収蔵庫のある大きな美術館を作る理由として規模の根拠にあげるだけならばよいが、倉庫代がもったいないという理由で美術館を作ろうとしているのであれば、美術館の維持費は今借りている倉庫代とは比較にならない金額がかかる。倉庫は倉庫専門に預けた方がよほど効率がよい。収蔵作品を全部見せなければならぬとか、死蔵されていると市民に言われるのは困るかもしれないが、こち

らから言うことではない。「見せる収蔵庫」という言葉を使うと、今流行りなので飛びつかれてしまうが、それは現実には展示室を新たに作るのと同じで、運営は難しいものになる。

○寺久保委員

保存収蔵施設と展示施設を分離して建設するアイデアを考えた。

保存収蔵施設が中核指令塔となり、他の文化施設を統合化する。保存収蔵施設は、現収蔵品はもとより、美術のみならず文化財全てを扱い、コア文化の発信基地とする。アクセスはよくないが、保存収蔵施設は災害に強い高台に設置する。収蔵庫の特別鑑賞は高額とてよいと思う。その代わり学芸員が案内してくれるなどの特別なサービスを提供する。民間への貸し出しも行う。

展示施設は、アクセスのよい利便性の高い場所に設置し、展示やイベントに特化させ、あらゆる展示方法に対応できるようにする。展示会場は民間への貸出を視野に入れ、市民の憩いの場になるよう工夫する。

○土橋座長

12月議会で市長の美術館に関する発言について質問があったが、議員が是にせよ否にせよ美術館整備について考えるきっかけになったのは総括的にはよかった。

反対者に対する意見を意識することも大事だと感じた。

○寺久保委員

議会対策は重要。

アンケート結果で美術館があってもいいという意見が半数くらいあるのは、やる気があることだと思う。

○事務局

美術館はないよりはあった方がいいという意見や、美術館を作ること自体は反対ではないという意見を聞いたが、どちらも優先順位や時期については今なのかという反応だった。

3. その他

○多賀委員

個人的な意見だが、市川は他の都市よりいい作家が多くいる。議員をはじめ多くの人にそのことを知ってもらいたい。

○寺久保委員

作家ではできないこともあるので、コーディネートをしてくれる人がいるかどうかで違う。

○事務局

文化人展や東山魁夷記念館での企画展がある時は議員にも案内している。庁舎にも市の収蔵作品を展示して活用し、見ていただく機会を設けている。

○寺久保委員

市の中で美術館について30年以上検討しているのは大きい。

○土橋座長

市川シビエ会主催の講演会で建昌氏が、市民団体で美術館整備についてこれほど熱心に活動しているところは他にないと褒めていた。市民団体と市の関係がうまく機能していると感じる。

○貝塚委員

市川市には実業界で力のある方はいるか。青森県立美術館の前館長が地元の銀行の頭取を長くやっていた方で、アートで青森県の活気を蘇らせようとした。その方が声をかけると青森の経済界が動く。いろんな人を動かせ市長と対等に話せる人は、市川市にはいないか。

○事務局

過去にいたが亡くなっている。文化の素地を作るなど様々な支援をしてもらい、市川の文化が育った。文化に特化して、同じように継ぐ人が今はいない。次世代育成として、構想素案の「人を育む」が課題になってくる。

○土橋座長

単なるスポンサーではなく、知的にもいろんな意味で理解してくださる方になる。

○松尾委員

市川のために何かしたいと思っている人の受け皿やアクセス方法を準備しておくことも、構想と同時に考えてもいいかもしれない。

美術館構想室はあるが、作品収集のための受け皿となる基金（文化振興基金でも）の創設や組織（準備室）があった方がよいこともある。

松戸市は準備室が何十年もあるが、窓口があると意見や情報が届きやすくなる。

（事務局からその他事項について）

本日のご意見を参考に、事務局で引き続き検討していく。